



済生会

わかやま

NEWS

第26号

発行日: 2013.11



～ 理念 ～

私たちは、地域社会に親しまれ、
信頼され、患者さんも職員も元氣
が出る病院をめざします。

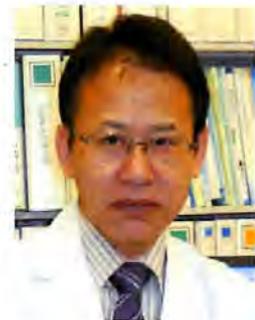
患者さんの権利と責務

1. 平等に良質で適切な医療を受ける権利があります。
2. 医療に際して十分な説明を受ける権利があります。
3. 検査・治療等に際してそれを受ける事を自己の判断のもと承諾あるいは、拒否する権利があります。
4. 医療のどの段階においても他の医師や医療機関の意見を求める権利があります。
5. 自己の病状について情報を得る権利があります。
6. 自己の病状について個人的情報の秘密を守られる権利があります。
7. 医療に関する苦情を申し立てる権利があります。
8. 良質な医療を実現するために、自己の健康状態に関する情報を正確に伝える責務があります。
9. 治療費を支払う責務があります。
10. 良好な療養生活を守るために、定められた諸規則を守る責務があります。
11. 医師・看護師や病院職員の指示に従う責務があります。

— Information —

～ チーム医療による質の高い医療を目指して ～

診療技術部長 丸山 秀夫



当院の組織は、診療部、看護部、事務部、診療技術部の4部門からなり、また、診療技術部は、薬剤部、放射線科、臨床検査科、リハビリテーション科、栄養管理科、臨床工学科の6部署からなる専門分野の集団です。診療技術部6部門間の連携は大変良く、また、診療技術部以外の多職種とのチーム医療の推進を積極的に進めています。

チーム医療とは、各分野の専門スタッフがチームを組み、一丸となって患者さんの治療にあたることをいいます。従来は主治医が中心となって治療を行っていましたが、チーム医療では関連職種のスタッフが主治医と対等な立場で患者さんに関わります。これによりスムーズな連携と各分野の専門性をより発揮することができ、医療の質を高め安全を確保することができます。当院ではチーム医療の展開を積極的に進めています。

当院は、日本医療機能評価機構認定病院ですが、病院機能評価においても「多職種が協働して患者さんの診療・ケアを行っている」ことが強く求められています。

診療技術部のそれぞれのスタッフは、多くの医療チームに参画し質の高い医療を目指しています。

以下、私たちの専門スタッフが参画しているチーム医療をご紹介します。

- ・糖尿病ケア： 糖尿病患者の日常的な療養生活のサポートを行い、合併症（糖尿病性神経障害、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症）などによる、しびれや神経痛、失明、腎不全や透析を必要とする尿毒症などの重症化を予防します。
- ・栄養サポート： 患者さん一人ひとりに最適な方法で、栄養状態の改善をめざす医療チームです。治療効果の増進や、早期の回復・退院・社会復帰などを目的としています。
- ・感染制御： 院内感染の発生防止を目的に活動しています。院内ラウンドや研修会を通じて、感染対策の指導と介入を行います。
- ・医療安全： 医療現場で起こりうるリスクに対して効果的なマネジメントを行うと、より高い医療の質を確保できます。当院ではこうしたリスクマネジメントを徹底するため、安全管理担当者を専任で配置。各部門から提出される報告書の集計・分析・問題点の整理を行い、現場と密に連携しながら、的確な防止策を検討・実施しています。
- ・褥瘡対策： 褥瘡とは、長時間の圧迫によってできる皮膚の潰瘍です。体の一部分が長時間圧迫されることによって皮膚の組織に血液が行きわたらず、赤くなったり、潰瘍や壊死を起こしたりします。体位変換（寝返りの補助）・褥瘡予防用マットレスの使用など予防と治療の両面から働きかけ、生活の質の向上に努めています。
- ・緩和ケア： 痛みやその他の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな問題をより早期に解決し、苦痛を予防あるいは軽減することを目指しています。
- ・外来化学療法： 各診療科から提出された抗がん剤のレジメン（薬の種類や投与量、投与方法などを時系列で示した治療計画書）について、検討を行い外来化学療法に適したレジメンの作成と登録を行っています。患者さん毎の薬歴を作成しレジメンと照合しながら薬剤の投与量・投与間隔をチェックすることにより、安全で有効な外来化学療法を受けていただけるように努めています。
- ・肝臓病教室： 肝疾患に関する正しい知識と情報を提供するため、「肝臓病教室」を開催しています。これは限られた診療時間では伝えきれない情報を発信する目的で実施しています。肝疾患の中でも患者数の多いウイルス性肝炎、肝硬変・肝臓がん、アルコール性肝炎・脂肪肝等中心に講義を行っています。
- ・嚥下リハビリ： 栄養状態、食事の状態、口の中の衛生状態をチェック・評価し、多くの医療専門職との連携により治療や嚥下訓練をすることで、食べる機能の回復や肺炎を防止し、日常生活における活動性の向上を目指します。



感染制御チーム(ICT)



栄養サポートチーム(NST)



外来化学療法チーム

～ 登録医総会開催について ～

地域医療連携室室長 重里 政信

8月3日(土)第5回済生会和歌山病院登録医総会を開催しました。

今年は、紀州踊りと同一日の開催となった為、駐車場や公共交通機関の影響を懸念し、急遽、開催会場を和歌山駅前のホテルグランヴィア和歌山に変更しました。

総勢71名の先生方にご参加いただき盛会裏のうちに終了することができました。

特別講演では、和歌山県立医科大学付属病院 内科学第三講座准教授 南方 良章先生より“大気汚染と呼吸器疾患”についてのお話をさせていただきました。今春、マスコミを騒がせたPM2.5についてのお話もあり、非常に興味深い講演内容で、登録医の先生方からも大好評でした。

来年は、7月26日(土)に第6回登録医総会の開催を予定しておりますので、よろしくお願い致します。



講演風景



登録医先生方との情報交換会

～ 災害医療実施訓練について ～

防災管理委員会 救急看護認定看護師 星田 龍也

平成25年8月31日、東海・東南海・南海地震震度6～7が発生し、8mの津波による被害が生じているという設定で災害訓練が行われました。訓練参加者は、当院職員や和歌山市医師会・看護学生・和歌山市消防・和歌山市職員の総数135名でした。災害発生時から災害対策本部の設置を行い、登院した職員によりトリアージセンターなど各ゾーンが設営されました。① 傷病者役は

傷などをリアルに化粧した看護学生さんが演じました。② 傷病者が来院すると、医師・看護師を中心とした医療チームによりトリアージされ、各ゾーンに搬送されます。各ゾーンでは、人材・物品・時間の制約がある環境下で、一人でも多く救命できるように、緊急度や優先度を判断し処置や治療を行いました。③ また、高度医療の必要性があると判断した場合は、救急車で広域搬送も行いました。④ 済生会和歌山病院として初めて大規模災害訓練を実施しましたが、実際に傷病者を確認すると、医師や看護師は緊迫感を持ち高いコミュニケーション技術で傷病者と向き合い、処置・治療を行いました。今回、大規模災害訓練を行うことで災害対策の問題が明確となりました。災害支援病院として災害拠点病院の支援、及び地域の中核病院として災害時に頼られるための技術と備えを十分に行わなければいけないことを実感することができました。今後も災害訓練を継続し、問題の明瞭化及び対策・改善することで、質の高い医療・看護を提供できると思います。



◀図1) トリアージセンターの設営とミーティング場面



▲図2) 臨場感のある創傷部の化粧



▼図3) 赤ゾーンでの治療場面



▲図4) 広域搬送場面

济生会和歌山病院外来診療予定表

(平成25年10月1日現在)

区分		月	火	水	木	金
内科	消化器内科	山原 邦浩	—	山原 邦浩	合田 杏佑	川口 雅功
		文野 真樹	玉川 えり	川口 雅功	—	文野 真樹
	糖尿病代謝内科	巽 邦浩	英 肇	荒古 道子	巽 邦浩	荒古 道子
		—	—	—	英 肇	—
	循環器内科	片岩 秀朗	辻岡 洋人	片岩 秀朗	辻岡 洋人	大鹿 裕之
		—	大鹿 裕之	—	—	—
脳神経外科		山家 弘雄	仲 寛	山家 弘雄	仲 寛	林 靖二
		三木潤一郎	—	林 宣秀	三木潤一郎	—
外科		—	高垣 有作	—	—	—
		重里 政信	—	重里 政信	—	中村 恭子
		—	—	ストーマ外来	—	國本 秀樹
心臓血管外科	栗山 雄幸	—	栗山 雄幸	岩橋 正尋	岩橋 正尋	
整形外科		西井 佑介	原田 悌志	新患診	松崎 交作	瀧口 登
		瀧口 登	山崎 悟		山崎 悟	原田 悌志
		西山 大介	—		西山 大介	—
リハビリテーション科	医大応援医師	中川 真理	中川 真理	中川 真里	中川 真理	
耳鼻咽喉科	—	—	医大応援医師	—	—	
腎センター	—	—	—	岡本 昌典	—	
眼科	金 桂洙	宮本 武	—	井上 晃宏	山中 修	
皮膚科	上中 智香子	—	—	山本 有紀	—	
泌尿器科	—	—	小池/井口(交替)	—	柑本 康夫	

【受付時間】 午前(全科) 8時30分～11時00分 (但し、予約患者は除く)

- *腎センターは木曜日午後 保存期外来を実施。
- *月曜日午後1時から予約制で禁煙外来を行っています。
- *眼科は水曜日休診となっております。
- *水曜日はストーマ外来を実施しています。
(予約制・初診の方は紹介状が必要です)

*当院では予約診療を行っているため、予約無しで来院された場合は、紹介状を持参されていてもお待ち頂く場合がございますのでご了承ください。



診療案内

診察日：月～金曜日
 受付時間：午前8時30分～午前11時(但し、予約患者はこの限りにあらず)
 休診日：土・日・祝祭日(年末年始)
 面会時間：月～金曜日 午後2時～午後7時 土・日・祝祭日 午前10時～午後7時



交通案内

- JR和歌山駅から和歌山バス約10分「京橋」下車、徒歩すぐ
- 南海和歌山市駅から和歌山バス約5分「京橋」下車、徒歩すぐ

地域医療連携室

TEL (073) 424-5186 FAX (073) 424-5187